

(第3種郵便物認可)

徳山ダム

新年度に導水路着工

水資源機構 工程案を提示

導水路は愛知県と名古屋市が水道、工業用水として確保した徳山ダムの水を木曽川に引く施設。渴水時に木曽・長良両河川の水量を維持する目的もある。総事業費は八百九十万円で、県は三十億円を負担する。

(河原広明)

徳山ダム（揖斐川町）の水を木曽・長良両河川に流す導水路事業を進める国と水資源機構は二十三日、二〇日の着工予定だったが、「ものではない」と断つ

ことにしており。この日の県議会水資源対策議員連盟の総会で、機構は「確定した放流先の河川環境など影響調査が長引いため、ずれ込んだ」。県は機構に「スケジュールありきではなく、環境への影響を十分に調査検討することが大事」と徹底調査を要請。国との同意を得てから着工

することにしている。この日の県議会水資源対策議員連盟の総会で、機構は「確定した放流先の河川環境など影響調査が長引いため、ずれ込めた」。全体の工事を一五年度半ばに終え、通水試験を経て、完成は予定通り同年度内とする。

同議連は県議三十六人が参加し、事業推進の立場だが、総会では県議から機構側に導水路の役割を尋ねるなど

基本的な理解を欠く質問が相次いだ。「放流



工程案を提示したことにしており。この日の県議会水資源対策議員連盟の総会で、機構は「確定した放流先の河川環境など影響調査が長引いため、ずれ込めた」。県は機構に「スケジュールありきではなく、環境への影響を十分に調査検討することが大事」と徹底調査を要請。国との同意を得てから着工

することにしている。この日の県議会水資源対策議員連盟の総会で、機構は「確定した放流先の河川環境など影響調査が長引いたが、着工予定だったが、『ものではない』と断つた上で工程案を提示。用地取得を〇九年度半ばに始め、同年度終盤に準備工事に着手。盤に準備工事に着手。半ばに終え、通水試験を経て、完成は予定通り同年度内としている。

同議連は県議三十六人が参加し、事業推進の立場だが、総会では県議から機構側に導水路の役割を尋ねるなど基本的な理解を欠く質問が相次いだ。「放流」との持論を話す県議も。一方で「県議は資料が届くが、県民には難解で分かりにくい」とPR不足を指摘する意見も出た。